

世界遺産保全活動を支援

新宮信金とカマハラテック モノレール寄贈



新宮信用金庫で開かれた贈呈式。左から新宮山彦ぐるーぷの玉岡憲明相談役、山上皓一郎副代表、川島功世話人代表、新宮信用金庫本店営業部の和平幸勝部長、緑ヶ丘支店の中西政貴支店長=17日、新宮市大橋通の新宮信用金庫本店



目録を贈呈するカマハラテックの谷公雄代表取締役(右)=17日、新宮市神倉(新宮信用金庫提供)

世界遺産に登録された山岳修験の大峯奥駈(おおみねおくがけ)道の整備保全を長年、ボランティアで続けている「新宮山彦ぐるーぷ」(川島功世話人代表、会員50人)を支援しようと新宮信用金庫

(浦木隆雄理事長)の「新宮しんきん世界遺産応援募金会」と新宮市神倉の株式会社カマハラテック(谷公雄代表取締役)は、険しい山中での活動に役立てるための作業用モノレールを寄贈した。17日に新宮信用金庫本店とカマハラテックで目録の贈呈式があった。

新宮山彦ぐるーぷは1984年から荒れていた南奥駈道の刈り開きを始め、重機が運び込まない山道で山小屋の整備なども民間の力でやり遂げた。「紀伊半島の霊場と参詣道」の世界遺産登録でこの整備した道が組み込まれ、同年に「シチズン・オブ・ザ・イヤヤー」に選ばれた。昨年にはグループのけん引役、玉岡憲明相談役が緑綬褒章を受けている。

新宮信用金庫の同募金会は役員有志116人で組織。世界遺産に登録された地元熊野の環境保全のために何かできないかと世界遺産登録の年、平成16年の9月に設立。役員が毎月募金を続け、毎年1回、世界遺産の保護活動を続けているボランティア団体を支援している。同金庫本店での贈呈式では緑ヶ丘支店

の中西政貴支店長、本店営業部の和平幸勝部長が山彦ぐるーぷの会員らを出迎えた。中西支店長はグループの長年にわたる維持管理の活動を高く評価し、「募金会の趣旨にぴったり。お役立てくださ」と目録を手渡した。川島代表は「平均年齢が高くなり、これまでは人海戦術でやってきたが、作業が厳しくなっている。モノレールの設置は本当にありがたい」と感謝した。

この後、川島代表らはカマハラテックを訪ね、谷代表からモノレールの動力機とレール架設の目録を受け取った。同金庫との縁の中で生まれた寄贈について谷代表は「活動を続けてほしい。世界遺産の保全活動に少しでもお役に立てばうれしい」と話していた。

モノレールはすでに5月初旬に奈良県吉野郡下北山村浦向に設置されている。山小屋「行仙宿」補給路登山口から浦向道合流地点までの約250m(高度差約130m)。会員によると物資の運搬が効率よくでき、作業がスムーズに進んでいると喜んでいた。(須川達也)